

Examining Learning Physical Expression (Education) B Class and Its Educational Effects through Students' Goal Attainment Evaluation and Teaching Skill Developmentand

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-12-22 キーワード (Ja): キーワード (En): Physical Expression (Physical Education), Class as a teaching subject, exarnination of learning contents of PEclass and its educational effiects, goal-attainrnt evaluation, teaching skill developrnt 作成者: SAHASHI, Yumi メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4060

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



幼稚園・小学校教職課程における「身体表現（体育）B」の授業内容の検討と学生の到達度評価、実践的指導力向上からみた授業効果の検証

Examining Learning Contents of Physical Expression (Physical Education) B Class and Its Educational Effects through Students' Goal- Attainment Evaluation and Teaching Skill Development

児童学部 児童学科
佐橋 由美 Yumi SAHASHI

要旨：本研究は、幼小教職課程の『教科に関する科目』として開設されている「身体表現（体育）B」の授業内容、目標設定、授業計画など授業の質やその教育効果などについて、学生の目標到達度評価や授業評価シートなどのツールを用い検証を行うものである。学生による目標到達度評価や、体育指導に関わる実践的指導力獲得の程度などを検討した結果、学習指導要領体育に準じて構成された授業内容は適切であり、学生の達成度評価などからみても一定の学習効果を提供できていることが検証された。

Abstract:The purpose of this present study was to examine learning contents of Physical Expression (Physical Education) Class B, (which is based on the Ministry's curriculum guideline), appropriateness of its goal- setting, and educational effects. Analyzing students' responses to a questionnaire on goal-attainment evaluation and their teaching skill development, it was found that the PE class offers suitable learning contents, and brings about a certain amount of educational effect.

キーワード：教職科目としての身体表現（体育）、授業内容の検討、授業効果の検証、到達度評価、実践的指導力

Keywords: Physical Expression (Physical Education) Class as a teaching subject, examination of learning contents of PE class and its educational effects, goal- attainment evaluation, teaching skill development

はじめに

本研究は幼稚園・小学校教職課程において、教職必修に指定されている授業科目『身体表現（体育）』の授業内容の検討と、授業を通じた学生の実践的指導力向上の面から、授業効果の検証を試みるものである。

『身体表現（体育）』の本学教職課程カリキュラム上の位置づけ、ならびに授業・科目の性格について考えてみると、身体表現（体育）は、免許法施行規則に定められた『教科に関する科目』として、国語、算数、生活（理科・社会）、音楽、図画工作等の教科と並んで、とりわけ小学校の基本教科の一つとして履修すべきものとされており（幼稚園6、小学校8科目以上の履修）、幼稚園・小学校教諭免許の取得を目指す学生にとって、必ず履修しなければならない科目の一つという位置づけである。

また、身体表現（体育）が幼稚園と小学校課程で共通（同一）の履修科目であること、それぞれ演習1単位のA・B2期に分かれていることを踏まえると、授業の性格、あるいは授業に求められる方向性はある程度定まったものとなってくる。すなわち、Aは幼稚園での幼児体育を念頭においた授業構成、Bは小学校での教科としての体育の学習を主眼とした授業構成を目指すというものである。ただし、Bの授業内容は、「初等教科教育法（体育）」において、小学校全体（1～6年）について発展的に学ぶことも考慮し、幼児体育からの連続性を意識しつつ、小学校低学年に的を絞ったものとするのが妥当と考えられる。

さて、身体表現（体育）の授業計画を考えるにあたっては、授業に与えられた以上の役割・性格を踏まえ、求められる内容・要素を盛り込む必要があるが、この

際、重要な指針となるのが小学校学習指導要領、幼稚園教育要領である。とりわけ、小学校低学年を主な対象とする身体表現（体育）Bでは、小学校学習指導要領（体育）で示される内容・領域を中心に授業計画を作成する必要がある。そして、授業の到達目標をその内容・領域に関する基本的な理解と実践・展開の方法の習得、指導法の学習に設定すべきであろう。

表1は、学習指導要領に示された小学校体育の学習内容を学年ごとにまとめた一覧表であるが、『身体表現（体育）B』の授業は、その低学年の部分を中心に計画したものといえ、わかりやすいであろう。

表2は身体表現（体育）Bの15回の授業計画である。指導要領に内容として挙げられた6領域のうち、身体表現（体育）Bでは、「体づくり運動」「走・跳の運動遊び」「器械・器具を使つての運動遊び」「ゲーム」「表現・リズム遊び」を扱う。

また、Webシラバスに公表された授業の到達目標は、「幼児の運動遊びから小学校低学年体育への連続性を念頭に置きながら様々な運動を体験し、確かな運動・表現技能とその指導技術を身につけることが目的である。具体的には、①小学校指導要領（低学年）の目標および内容を理解できる、②その領域内容のいくつかを指導できる。」であった。

本研究は、以上の到達目標と授業計画に基づき行った平成28年度「身体表現（体育）B」授業の内容評価を学生による目標到達度評価を手がかりとして行うことが目的である。特に今回は、授業に対する感想・コメントなど質的な調査素材ではなく、到達度自己評価や指導力自己評価等のアンケート調査結果を素材として、当該授業の効果といったものを数量的に検討していきたい。

表1 小学校体育科の領域構成と内容

1年	2年	3年	4年	5年	6年
【体づくり運動】					
体ほぐしの運動	体ほぐしの運動	体ほぐしの運動	体ほぐしの運動	体ほぐしの運動	体ほぐしの運動
多様な動きをつくる運動遊び	多様な動きをつくる運動遊び	多様な動きをつくる運動遊び	多様な動きをつくる運動遊び	体力を高める運動	体力を高める運動
【器械・器具を使つての運動遊び】		【器械運動】			
固定施設を使った運動遊び					
マットを使った運動遊び		マット運動		マット運動	
鉄棒を使った運動遊び		鉄棒運動		鉄棒運動	
跳び箱を使った運動遊び		跳び箱運動		跳び箱運動	
【走・跳の運動遊び】		【走・跳の運動】		【陸上運動】	
走の運動遊び		かけっこ・リレー		短距離走・リレー	
		小型ハードル走		ハードル走	
跳の運動遊び		幅跳び		走り幅跳び	
		高跳び		走り高跳び	
【水遊び】		【浮く・泳ぐ運動】		【水泳】	
水に慣れる遊び		泳ぐ運動		クロール	
浮く・もぐる遊び		浮く運動		平泳ぎ	
【ゲーム】				【ボール運動】	
ボールゲーム		ゴール型ゲーム		ゴール型	
鬼遊び		ネット型ゲーム		ネット型	
		ベースボール型ゲーム		ベースボール型	
【表現リズム遊び】		【表現運動】			
表現遊び		表現		表現	
リズム遊び		リズムダンス			
				フォークダンス	

表2 授業計画

回数	テーマ・領域	内容・具体的項目・説明
1	ガイダンス	指導要領による学習内容の概略・目標・課題の確認、授業記録(マイノート)の記入法
2	体づくり運動と走	走ることを中心としたいろいろな体づくり運動の実習、グループ対抗リレー等の走のゲーム
3	体づくり運動と走・跳	遠くに跳ぶ・巧みに跳ぶを中心とした体づくり運動の実習(幅跳び・いろいろな縄跳びの方法)
4	体づくり運動-音楽に合わせて縄跳びパフォーマンス	”さんぽ”に合わせたグループ縄跳びパフォーマンスを作成し、発表する
5	器具・器械を使う運動	輪・縄・ボールを使った様々な運動遊びの実習、一輪車・竹馬の練習
6	器具・器械を使う運動(跳び箱・マット運動の基礎)	跳び箱運動・遊びの実習、マット運動の基本技の練習
7	器具・器械を使う運動(マット運動への挑戦と工夫)	マット運動グループパフォーマンス(輪・縄・ボール・一輪車等を使って)づくりと練習
8	器具・器械を使う運動(マット運動への挑戦と工夫)	マット運動グループパフォーマンス(輪・縄・ボール・一輪車等を使って)づくりと練習
9	器具・器械を使う運動(マット運動への挑戦と工夫)	グループパフォーマンス発表会
10	ゲーム(鬼遊び・ボール運動)	いろいろな鬼遊び、ドッジボール等のボール遊びの実習
11	リズム・表現運動	運動会等の行事で演じる低学年用リズム・表現運動を考える一話し合い
12	リズム・表現運動	運動会等の行事用のダンス作品(音楽編集や衣装づくりも含む)づくりおよび練習
13	リズム・表現運動	運動会等の行事用のダンス作品(音楽編集や衣装づくりも含む)づくりおよび練習
14	リズム・表現運動	発表会
15	まとめ	発表会のVTR観賞、目標到達度等のアンケートによる授業の振り返りと評価、マイノート提出

研究の方法

本研究の目的は、身体表現(体育)Bの授業内容を検討するとともに、授業を通じて学生がどの程度授業の内容を習得できたか、指導力が高まったかなどを数量的に把握し、そのことによって類推的に授業効果を検証しようとするものである。

調査計画:

この目的を達成するために、初回授業において、「表現」活動指導力評価尺度(佐橋, 2016)、専門学習動機づけ尺度、進路希望調査を含む事前アンケートを実施した。これは学生のベースラインでの状況を調査するためのものである。そして、最終授業において、同上のアンケート(事後調査)を再度実施するとともに、授業内容に対する印象・評価、ならびに授業目標への到達度を把握するために、「身体表現(体育)B」授業アンケートをあわせて行った。

ちなみに、身体表現(体育)A・Bの授業では、『マイノート』という授業記録を課しており、毎回の授業の簡単な記録(①日付、②回数(〇回/15)とテーマ、③活動内容、④板書等の留意事項、⑤グループメンバーの名前、⑥感想等)を自由な形式で記録させている。ノートは成績評価の対象であり、15回目の授業で、文末に示した自己評価シート(資料1)を記入、添付して提出することになっている。

調査内容:

a) 目標到達度評価

15回目最終授業において、シラバスに設定された授業の到達目標に対し、各自がどの程度全授業を通じて近づけたかを22の調査項目により総合的に判断するものである(5段階評価)。22項目の中には、主要な学習領域「A. 体づくりの運動」「B. 器械・器具を使った運動遊び」「C. 走・跳の運動遊び」「E. ゲーム」「F. 表現・

リズム遊び」の内容の理解や実践的な展開に関することと、指導技術に関するものの2側面から質問を行っている。この他に、体育指導に関わるより総合的な知識や態度に関する項目も含まれていた。また、アンケートの最後の箇所では、授業の総合的な印象についても尋ねた。例えば、「面白かった」か、「子どもの指導に自信がついた」かどうか、指導場面で役立つ授業だったかなどの項目を含んでいた。

b) 「表現」活動指導力評価尺度による指導力向上の状況把握

保育・幼児教育の場において展開される「表現」活動の指導にあたって必要とされる実践的指導力をリストアップした35項目からなる指導力評価尺度(佐橋, 2016)(5段階評価)を初回と最終回の2度実施した。当尺度は、幼稚園教育要領に示される5つの保育内容のうち、「表現」領域に属する保育・教育活動を展開していくための実践的指導力を把握する目的で作成され、身体表現・体育的活動のみならず、音楽表現領域、言語表現領域、造形表現領域の保育・教育活動をも視野に入れた包括的なものとなっている。

c) 専門学習動機づけ

学習成果と動機づけは密接な関連があるとされる。とりわけ、対象を専門授業、専門領域の学習に焦点を絞った専門領域学習動機づけの状況を把握することは、授業での学びの質を検討するにあたって意味あることと思われる。13項目からなる専門学習動機づけ尺度(5段階評価)を2回にわたって実施した。

結果と考察

1. 到達度評価からみた授業の効果

表3は、最終授業において学生が行った自身の到達度評価や授業全般に関する授業評価の結果を集計した

ものである。

シラバスに提示された授業の到達目標は、「幼児の運動遊びから小学校低学年体育への連続性を念頭に置きながら様々な運動を体験し、確かな運動・表現技能とその指導技術を身につける」ことであり、より具体的な目標として、「①小学校指導要領（低学年）の目標および内容を理解できる」と「②その領域内容のいくつかを指導できる」が設定されている。

まず、領域内容（A～F）ごとに、自らが当該運動・遊びの性質を理解し、楽しく、多様に展開していく実践力がどの程度身についたかという観点と、子どもを指導できる指導力や指導技術がどの程度身についたかという2つの側面から評価を求めた。従って、「展開力」と「指導力」ではどの程度評価に差があるのか、また、各領域内容に関して、どの領域が得意・不得意といった項目間比較が可能である。

表3によれば、どの領域に関しても、展開力>指導力という結果が示された。展開力についてはある程度の自信をもっているが、それに比して指導面での実力はやや低く評価されている。

領域については、F.表現リズム遊びの到達度が高く評価される傾向にあった。その理由としてはまず、「身体表現（体育）A」において、かなりの時間を割いて、幼児向きの曲に合わせたダンス・リズムダンス的な表

現活動を集中的に行ったことが影響している可能性が考えられる。あるいは、今回の表現リズム遊びの単元において、曲編集から、衣装・用具づくり、振付等自由度の高い行事用パフォーマンスづくりに取り組んだことが原因であろうか。楽曲や衣装等の工夫、行事用の見せるパフォーマンスの振付等、かける時間も労力も大きかったようであるが、やりがいや達成感につながったのではないかと思われる。

その他、グループ活動は本授業の大きな特徴ともいえるが、それに関する項目（例えば、8.グループ活動で、アイデアを出したり、役割を果たしたりとグループに貢献する姿勢が示せた、9.グループ発表のクオリティを高めるために、最大限の努力ができた等）の達成度評価が顕著に高くなっていた。

また、21.服装や授業態度など、指導者として必要な態度・姿勢を意識できた、22.安全に対する配慮など、指導者として必要な知識を増やすことができたなどの項目で評価が高かった。これらの点も、授業の中では強調する機会が多く、このような結果として表れたものと思われる。

授業の総合評価に関しては、4.指導場面で役立つ授業内容であった、という項目において、ある程度の評価を得たが、3.子どもの指導に自信がついた、という項目では評価がかなり低くなっており、有意義な学習

表3 「身体表現(体育)B」授業アンケート(学生の到達度評価および授業評価等)の結果(N = 136)

カテゴリー	No	質問内容	平均	SD
目標到達評価	「体育」 全般的	1 子どもに指導する前に、自身がいくつかの運動・身体活動種目を楽しんでできるくらいに上達した	3.69	0.80
		2 いくつかの運動・身体活動種目の展開の仕方、ルール改良等の工夫などについて習得した	3.65	0.67
		3 からだを動かす爽快感を授業の中で感じることができた	3.84	0.90
		4 運動・表現遊びの楽しさの源泉がどこにあるか理解できた	3.53	0.85
		5 幼児の運動遊び(身体表現A)から小学校低学年体育(身体表現B)への連続性について意識できた	3.52	0.72
		6 小学校指導要領「体育科」の指導内容(低学年)の全体像を理解した	3.42	0.71
		7 指導要領の記述について、低学年、中学年、高学年の違いを理解した	3.54	0.79
	態度的 側面	8 グループ活動で、アイデアを出したり、役割を果たしたりとグループに貢献する姿勢が示せた	4.06	0.81
		9 グループ発表のクオリティを高めるために、最大限の努力ができた	4.02	0.77
		10 授業の中で、いくつかの苦手な運動・身体活動種目を克服することができた	3.49	0.80
	指導要領 関連	11 「A からだづくり運動」のいくつかの活動例を実際に展開できる自信がついた	3.39	0.63
		12 「A からだづくり運動」のいくつかの活動例を指導できる指導技術を身につけた	3.29	0.67
		13 「C 走・跳の運動遊び」のいくつかの活動例を実際に展開できる自信がついた	3.37	0.71
		14 「C 走・跳の運動遊び」のいくつかの活動例を指導できる指導技術を身につけた	3.26	0.68
		15 「B 器械・器具を使つての運動遊び」のいくつかの活動例を実際に展開できる自信がついた	3.36	0.74
		16 「B 器械・器具を使つての運動遊び」のいくつかの活動例を指導できる指導技術を身につけた	3.25	0.76
		17 「E ゲーム」領域のボールゲームや鬼遊びなど、いくつかの活動例を展開できる自信がついた	3.35	0.91
		18 「E ゲーム」領域のボールゲームや鬼遊びなど、いくつかの活動例を指導できる指導技術を身につけた	3.30	0.91
		19 「F 表現リズム遊び」のいくつかの活動例を実際に展開できる自信がついた	3.51	0.82
		20 「F 表現リズム遊び」のいくつかの活動例を指導できる指導技術を身につけた	3.51	0.80
態度的 側面	21 服装や授業態度など、指導者として必要な態度・姿勢を意識できた	4.06	0.78	
	22 安全に対する配慮など、指導者として必要な知識を増やすことができた	4.07	0.74	
授業 評価	1 どの程度、面白かったですか？	3.89	0.77	
	2 どの程度満足でしたか？	3.82	0.77	
	3 どの程度、子どもの指導に自信ができましたか？	3.35	0.75	
	4 どの程度、指導場面で役立つ授業内容だったと思いますか？	3.90	0.77	

はできたと感じるものの、十分な指導力が身につく、子どもの体育指導に自信が持てる程には至らなかったということであろうか。

2. 指導力向上からみた授業の効果

表4は、筆者(2016)が作成した「表現」活動指導力評価尺度を用いて、授業の前後で学生の身体表現活動・体育的活動の指導力評価にどのような変化がみられるのか、また、身体表現・体育的活動の指導力が授業終了時にはレベルアップしたのかどうか検討したものである。当尺度は、もともとは幼稚園教育要領に示された5つの保育内容のうち、「表現」領域に属する保育・教育活動を展開していくための実践的指導力を把握する目的で作成されたため、身体表現・体育的活動のみならず、音楽表現、言語表現、造形表現の領域の保育・教育活動をも視野に入れたものとなっている。

表4には、2回の調査データの平均値と検定結果を示した。ほとんどの項目において、初回ベースラインデータの得点よりも、授業終了後の得点の方が高く、その水準差は統計的に有意であった。ただ、唯一差が認められなかった項目は、32. 達成の喜びを伝えたいという思いがある、であり、この項目は、初回最終回と

もに身体表現領域の中で、また、全35項目の中でも最も高い得点を示していた。つまり、もともと重要項目と認識されており、期間を経ても顕著な上昇を見せなかったものと思われる。

また、身体表現領域の項目群は、他よりも得点が高い傾向があり、体育授業の中で調査を実施したため、体育関連の項目に意識が向けられたためそうなったのか、授業の真の効果なのかは判断が難しいところである。しかし、26. イマジネーション豊かな遊びを考案することができる、27. 遊びが盛り上がる雰囲気づくりができる、28. 楽しい雰囲気を作り出す場面設定や声掛けが上手い、29. リズムダンスやダンス的な動きを指導するのが得意、33. 心身の発達を促すような遊びを構成することができる、34. 大人数の子どもたちの遊びを指導することが上手い、35. 遊びを通じて友達と積極的に関わることの大切さを伝える指導ができる、などの項目で指導力が大きく向上したと学生が評価していることは、授業で行った学習がきっかけとなった可能性はある。アンケート回答時に、授業での学習体験が想起され、自身の指導の力量が向上したと認識されたのなら、それは授業の効果であったと評価してもよいであろう。

また、他の領域における指導力評価も全般的に向上

表4「表現」活動指導力の変化(N = 136)

	No	質問内容	M (第1回)	M (第15回)	SD (第1回)	SD (第15回)	t 値	有意確率
音楽表現領域	1	保育や幼児教育が必要とされるピアノなど楽器の演奏は基準レベルまで達している	2.61	2.73	1.09	1.09	2.06	.042 *
	2	保育や幼児教育が必要とされる歌唱などは基準レベルまで達している	2.80	2.92	0.96	0.98	1.64	.104 n. s.
	3	弾き語りなど音楽表現の指導が必要とされる基礎技術は身に付けている	2.47	2.72	0.96	1.00	3.38	.001 **
	4	歌や音楽で子どもを楽しませることが上手である	2.43	2.76	0.86	0.94	4.45	.000 ***
	5	いろいろなリズム遊びを指導できる	2.58	2.92	0.86	0.94	5.27	.000 ***
	6	リズムを応用すると知的学習などで効果が上がること理解している	3.11	3.22	0.97	0.92	1.42	.158 n. s.
言語表現領域	7	子ども文学、昔話、童話、民話などに対する広い知識がある	2.50	2.68	0.88	0.80	2.75	.007 **
	8	物語、絵本の朗読など、言語表現に対する基礎知識、指導力を身に付けている	2.83	3.08	0.91	0.84	3.28	.001 **
	9	本の読み聞かせの基本技術は身に付けている	3.10	3.32	0.91	0.93	3.26	.001 **
	10	乳幼児に対する効果的な読み方やお話の仕方ができる	2.88	3.18	0.89	0.89	4.47	.000 ***
	11	子どもの発達を促すような、良い言語素材を選ぶ能力を身に付けて	2.76	3.00	0.81	0.79	3.50	.001 **
	12	手遊びなどの、集中させるための予備動作を効果的に指導できる	2.74	3.05	0.83	0.86	4.81	.000 ***
	13	いろいろな登場人物のせりふを、ふさわしく演じることができる	2.80	3.09	0.93	0.94	3.97	.000 ***
	14	物語の舞台設定や効果音などに対する知識を身に付けている	2.63	2.88	0.91	0.92	3.07	.003 **
	15	季節ごとの行事などを組み立てるための文学的素材を適切に選ぶことができ、レパートリーも広い	2.53	2.79	0.77	0.77	3.86	.000 ***
造形表現領域	16	いろいろな年齢の子どもにふさわしい造形指導ができる	2.69	2.96	0.82	0.82	3.42	.001 **
	17	いろいろな方法・手法の作品づくりに熟達している	2.65	2.95	0.79	0.85	3.95	.000 ***
	18	子どもが作ったものからお話や活動を発展させたりすることができる	2.63	2.95	0.84	0.84	4.40	.000 ***
	19	季節を意識した造形活動が展開できる	2.89	3.18	0.85	0.88	3.56	.001 **
	20	子どもの指導に限らず、一般的な図画工作などの造形表現のスキルは高い	2.76	2.97	0.90	1.02	2.84	.005 **
	21	子どもの身近にある生き物などを描かせたり、作らせたりする指導が上手い	2.54	2.69	0.81	0.82	2.36	.020 *
身体表現領域指導力	22	跳ぶ・走る・投げるなどの基本的な運動の遊びを指導できる	3.04	3.19	0.87	0.90	2.19	.030 *
	23	子どもに運動遊びの楽しさを伝えることができる	3.06	3.34	0.87	0.92	3.51	.001 **
	24	身近にある用具や道具を使っておもしろい遊びを工夫することができる	2.89	3.18	0.90	0.96	3.57	.000 ***
	25	指導できる鬼ごっこや伝承遊びのレパートリーは広い	2.82	3.01	0.88	0.88	2.49	.014 *
	26	イマジネーション豊かな遊びを考案することができる	2.60	2.95	0.80	0.91	4.36	.000 ***
	27	遊びが盛り上がる雰囲気づくりができる	3.06	3.44	0.87	0.86	5.37	.000 ***
	28	楽しい雰囲気を作り出す場面設定や声掛けが上手い	2.85	3.24	0.90	0.90	5.15	.000 ***
	29	リズムダンスやダンス的な動きを指導するのが得意である	2.60	2.94	1.03	0.97	4.69	.000 ***
	30	大人の真似をしたり、動物になりきったりする表現遊びの指導ができる	2.79	3.04	0.94	0.88	3.32	.001 **
	31	劇的な表現活動やミュージカルのような音楽と身体表現が融合した表現活動に対する基礎知識がある	2.54	2.86	0.89	0.94	4.02	.000 ***
	32	できなかったことができるようになる「達成の喜び」を子どもに伝えたいという思いがある	3.67	3.79	0.98	1.03	1.33	.186 n. s.
	33	心身の発達を促すような運動遊びや表現遊びを構成することができる	2.78	3.08	0.77	0.81	4.42	.000 ***
	34	大人数の子どもたちの遊び(グループ遊び・団体行動)を指導することが上手い	2.69	2.99	0.83	0.85	4.41	.000 ***
	35	遊びを通じて友達と積極的に関わることの大切さを伝える指導ができる	3.15	3.47	0.90	0.91	4.40	.000 ***

している点をどう解釈したらよいのであろうか。一つの解釈は、3回生の春学期といった時期の問題である。本学部のカリキュラムマップによれば、3年の春学期末には、実習系の科目の大半を履修し終えるという状況であるので、実践的な指導力という点では頂点付近にいと考えるとよいであろう。

3. 専門学習への動機づけと授業の効果

最後に、各学生の専門学習への動機づけの状況が自身の到達度評価にどう関わっているのかについて検討してみたい。筆者は動機づけレベルの高い学生は、授業での学びに対する意識が高く、意欲的により多くのことを熱心に学ぼうとするため、結果として高いレベルの達成に至るのではないかと予測する。

表5は、より少ない観点での分析が可能となるように、第2回目調査データを用い、専門学習動機づけ13項目に対して因子分析を試みた結果である。主因子法により固有値1以上の因子を抽出する方法で因子抽出を行い、単独の因子のみに負荷量が最低.40以上を示すという条件に当てはまる項目のみを残し(項目1, 5, 6を除外)、再び同様の手法による分析を行い、分析結果を確定させた。そして、抽出された3因子および10

項目の合成指標と、達成度評価の間の相関係数を算出し、その関係性について検討したものが表6である。

第Ⅲ因子に属する項目は、22.子どもに関わる職業に就きたいので、理論的な勉強を日々怠らない、や12.ボランティア活動など積極的に参加している、13.ピアノなどのレッスンに定期的に通っている、など保育・教育の仕事に就くために努力する姿勢や、強い関心・傾倒をさすものであるが、表6にあるように、他の2因子に比べると到達度評価との関連性は弱いことが分かる。到達度評価との関連性がある程度確認されたのは、むしろ楽しさや内発的な興味を表す第Ⅰ因子や、これまでの学びに対する自信を示す第Ⅱ因子であった。

表5 専門学習動機づけ項目に対する因子分析の結果(主因子法・バリマックス回転)(N=136)

No	質問内容	I	II	III
I: 内発的興味 (M=3.47, SD=0.67, α=.762)				
3	子どもについて学ぶことは楽しい	.848	.132	.122
2	保育や教育の分野の勉強は興味深い	.833	.155	.170
7	保育・教育に関する実技科目の勉強は楽しい	.499	.257	.164
*4	児童学科を選んだけれども、子どもが好きかといわれると自信がない	.473	.016	-.146
8	保育・教育に関する理論の勉強は楽しい	.445	.273	.269
II: 学びに対する自信 (M=3.14, SD=0.84, α=.961)				
10	保育・教育に必要な基礎的スキルは十分に身につけたと思う	.210	.945	.136
9	保育・教育に必要な基礎的知識は十分に身につけたと思う	.179	.906	.189
III: コミットメント (M=2.57, SD=0.85, α=.510)				
11	子どもに関わる職業につきたいので、理論的な勉強を日々怠らない	.198	.260	.620
12	子どもに関わる職業につきたいので、ボランティア活動など積極的に参加している	.120	.140	.495
13	保育・教育職に就きたいので、ピアノなどのレッスンに定期的に通っている	-.063	-.013	.465
* 逆転項目 (α=.744)		累積%	33.83	45.74
				52.68

表6 専門学習動機づけと到達度評価、授業評価との関連性についての検討(相関分析・N=136)

カテゴリ	No	質問内容	因子Ⅰ	因子Ⅱ	因子Ⅲ	10合成
「体育」 全般的	1	子どもに指導する前に、自身がいくつかの運動・身体活動種目を楽しんでできるくらいに上達した	.239	.185	.041	.219
	2	いくつかの運動・身体活動種目の展開の仕方、ルール改良等の工夫などについて習得した	.084	.076	-.028	.061
	3	からだを動かす爽快感を授業の中で感じる事ができた	.222	.088	.088	.201
	4	運動・表現遊びの楽しさの源泉がどこにあるか理解できた	.206	.243	.094	.242
	5	幼児の運動遊び(身体表現A)から小学校低学年体育(身体表現B)への連続性について意識できた	.319	.186	.038	.266
	6	小学校指導要領「体育科」の指導内容(低学年)の全体像を理解した	.202	.221	.066	.220
	7	指導要領の記述について、低学年、中学年、高学年の違いを理解した	.202	.233	-.022	.183
目標到達 評価	8	グループ活動で、アイデアを出したり、役割を果たしたりとグループに貢献する姿勢が示せた	.163	.167	.005	.151
	9	グループ発表のクオリティを高めるために、最大限の努力ができた	.080	.148	.030	.107
	10	授業の中で、いくつかの苦手な運動・身体活動種目を克服することができた	.206	.137	.047	.188
指導要領 関連	11	「A からだづくり運動」のいくつかの活動例を実際に展開できる自信がついた	.160	.123	.077	.169
	12	「A からだづくり運動」のいくつかの活動例を指導できる指導技術を身につけた	.168	.163	.290	.285
	13	「C 走・跳の運動遊び」のいくつかの活動例を実際に展開できる自信がついた	.278	.263	.123	.304
	14	「C 走・跳の運動遊び」のいくつかの活動例を指導できる指導技術を身につけた	.249	.161	.224	.302
	15	「B 器械・器具を使つての運動遊び」のいくつかの活動例を実際に展開できる自信がついた	.226	.231	.109	.257
	16	「B 器械・器具を使つての運動遊び」のいくつかの活動例を指導できる指導技術を身につけた	.241	.238	.299	.355
	17	「E ゲーム」領域のボールゲームや鬼遊びなど、いくつかの活動例を展開できる自信がついた	-.045	.017	.058	.005
	18	「E ゲーム」領域のボールゲームや鬼遊びなど、いくつかの活動例を指導できる指導技術を身につけた	-.071	.025	.097	.009
	19	「F 表現リズム遊び」のいくつかの活動例を実際に展開できる自信がついた	.082	.162	-.004	.097
	20	「F 表現リズム遊び」のいくつかの活動例を指導できる指導技術を身につけた	.111	.224	.077	.170
授業 評価	21	服装や授業態度など、指導者として必要な態度・姿勢を意識できた	.295	.370	.102	.337
	22	安全に対する配慮など、指導者として必要な知識を増やすことができた	.293	.356	.139	.349
授業 評価	1	どの程度、面白かったですか?	.261	.190	.160	.289
	2	どの程度満足でしたか?	.255	.177	.110	.258
	3	どの程度、子どもの指導に自信ができましたか?	.272	.259	.165	.319
	4	どの程度、指導場面で役立つ授業内容だったと思いますか?	.201	.146	.125	.223

※ I: 内発的興味 II: 学びに対する自信 III: コミットメント

※※

p < .05 p < .01 p < .001

また、3因子の合成によるトータルな動機づけに基づき到達度評価や授業評価との関連性を見ると、授業評価に関しては一定程度の関連性が認められた(項目1~4)。一方、到達度評価では、指導要領の学習内容の習得に関連して3項目(13, 14, 16)、態度的側面で2項目(21, 22)などにおいて、0.1%水準で有意な相関が確認された。どの評価項目についても、強い相関というものは確認されなかったが、専門学習動機づけのような、個人内の特性のような要因も学習成果の認識と関連性があることが示唆された。

結 び

本研究は、幼小教職課程科目の1つとして開設されている「身体表現(体育)B」授業の学習内容や目標設定のあり方、単元配当等授業計画や授業展開の方法など、授業の質やその教育効果などについて、学生からの授業評価や学生が認知する実践的指導力の向上に基づき、授業の適切性を検証しようとするものであった。

学生が最終授業で行った到達度評価・授業評価アンケートによれば、学習指導要領に従って授業に盛り込まれた領域・内容について、活動種目の特性を理解し、楽しく多様に展開していく実践力はある程度身についた、と回答していたが、子どもを指導できる指導力や指導技術については、習得が十分ではないと評価する傾向があった。すなわち、どの内容・領域についても、自分ができるという「展開力・実践力」のレベルまでは多くの学生が到達するのであるが、その先の「指導力」獲得のレベルにまで進むのは、結構難しいことが判明した。いずれにせよ、指導要領に示されるほとんどの内容・領域について、最低限「実践力」、人によっては「指導力」まで身につけることができたという評価を得たことで、本授業の教育効果をある程度確認することができた。

領域別では、本学学生の場合、「表現リズム遊び」が得意分野といえるようで、他領域に比べ、「実践力」「指導力」とも到達度評価の点数が高かった。この結果には、Aの授業の伏線があったものと考えている。

さらに注目すべきは、領域・内容に関してではなく、指導者に求められる姿勢や態度、グループへの貢献といったいわば中核の授業内容とは異なった観点で、多くのことを学んだという評価がなされており、身体表現授業の副次的な成果が予想外に現れる結果となった。このような指導者としての姿勢や態度といったことは授業の中で繰り返し強調していた事柄であり、学生は授業担当者の意図をしっかりと汲んでくれていたようである。

ある。

また、授業評価に関しては、指導場面で役立つ授業だったという効用の側面と、実際に楽しんで学習できた、面白かったという動機づけ促進的な場の雰囲気を持てたという点で、当授業は肯定的な評価を得たといえる。

指導スキルの向上からみた授業効果の検証では、授業の初回と最終回に行った指導力評価によると、体育的・身体表現的活動の指導力が顕著にアップしており、すべてが授業の成果とはいえないまでも、かなりの部分、身体表現授業の教育効果と評価してもよいのではないかと思われる。

引用・参考文献

- 麻生和江 (2005). 小学校の体育を指導できる力の向上を目指した初等体育における授業内容(表現運動)ー選択制15コマの事例としてー 体育科教育学研究, 21(1):39-42.
- 甲賀成美・茅野理子 (2007). 「体ほぐしの運動」の内容に関する事例研究ー小学校高学年でのダンス的内容とプロブレム・ソルビングを中心とした内容 舞踊教育学研究, 9: 15-31.
- 文部科学省 (2013). 学校体育実技指導資料第9集 表現運動系及びダンス指導の手引 東洋館出版社
- 文部科学省 (2008). 幼稚園教育要領 教育出版
- 文部科学省 (2008). 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
- 文部科学省 (2000). 学校体育実技指導資料第7集 体づくり運動ー授業の考え方と進め方ー 東洋館出版社
- 文部科学省 (1999). 小学校学習指導要領解説体育編 東山書房
- 中村恭之・岩田靖 (2001). 小学校体育における「体ほぐしの運動」の実践事例ー「仲間との交流」を中心にしたチャレンジ運動の発想を機軸にー 信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, 教育実践研究, 2: 133-142.
- 西洋子・本山益子・鈴木裕子・吉川京子 (2007). 子ども・からだ・表現ー豊かな保育内容のための理論と演習 市村出版
- 岡出美則 (2003). アメリカにみる指導と評価の一体化を目指す試み 体育科教育学研究, 20(1): 27-35.
- 佐分利育代 (2005). 小学校の体育を指導できる力の向上を目指した初等体育における授業内容(表現運動)ー教員養成課程における現状ー 体育科教育学

